

令和4年1月12日

各都道府県産婦人科医会 会長 殿

公益社団法人 日本産婦人科医会  
会 長 木下 勝之  
副 会 長 平原 史樹  
常務理事 中井 章人  
幹 事 倉澤健太郎

## 第6波（新型コロナウイルス感染症（COVID-19））流行に備えて

- ① 若年層に多く感染例が出ていますので妊婦、その家族等には十分感染予防を徹底するよう周知のほどお願いします。
- ② 経口初期治療薬は妊婦には禁忌です；コロナ感染症に対する発症初期投与治療薬であるモルヌピラビル（ラゲブリオカプセル）は妊婦に対しては禁忌となっています。現状では、妊婦には、感染しても有効で安全な経口薬はまだ開発されていませんので、従来通り、妊婦の場合は特に感染予防を徹底していただくようお願いします。
- ③ 各都道府県産科婦人科医会へのお願い
  - (i) 妊婦の3回目ワクチン接種の推進を、都道府県担当部署と調整して進めてください。
  - (ii) 妊婦の医学的リスク、生活環境要因を考慮して、自宅での隔離・宿泊療養・入院等ができるように、各都道府県行政の、周産期医療・母子保健担当部局、感染症担当部局、こども福祉部局等と調整をお願いします。

### 【妊婦のリスク】

- ・第6波の中心となるオミクロン株の妊婦への影響等についてはまだ情報が得られておりませんが、従来の情報（妊娠中は重症化リスクするリスクがあり、特に高齢、肥満、喫煙、高血圧、糖尿病、ぜんそくなどの合併症例には留意する必要があります）に準じた注意喚起を継続してください。

### 【ワクチン、治療】

- ・ワクチンはオミクロン株感染においても一定の感染抑制と重症化抑制の効果が期待されていますので妊婦、妊娠を考えている方への情報提供と接種推進をお願いします。

・感染初期治療については下記の現状です。

- 1 中和カクテル療法（ロナプリーブ）はオミクロンにはあまり有効ではないとの報告があります。（妊婦は“治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与”となっています。）
- 2 中和抗体療法ゼビュディは有効との報告があります。（妊婦は“治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与”となっています。）
- 3 経口承認薬（発症初期投与）のモルヌピラビル（ラゲブリオカプセル）は妊婦禁忌です。

#### 【感染予防】

- ・オミクロン株流行状況を見ると若い世代が6-7割を占めており、妊婦、その家族の世代は十分感染しないように感染予防の生活行動をするよう啓発をお願いします。
- ・感染症形式はエアロゾル感染（空気感染に近い）が主とされており、マスク、密の回避、頻繁の換気、手洗い、消毒などが感染予防の原則ですがとくに家庭外での食事の際にはいわゆる黙食、会話時には必ずマスク着用が守られないなかでのクラスター感染が目立ちます。
- ・軽症が多いため自宅療養の事例が増え、妊婦のおかれた生活環境によっては患者として、濃厚接触者として家族（特に子ども）などからの隔離、社会的施設受け入れなどの必要性が生じる可能性がありますので上記まとめ③に記したとおり、多様な状況に対応できるよう関係部局と調整をするようにお願いします（周産期医療・母子保健担当部局、感染症担当部局、子ども福祉部局、等）。
- ・スタッフ職員の感染、濃厚接触事例も増加していますので、職場での感染防御とともに、上記の生活の中での感染予防も含めて徹底してください。